

令和3年度 みんなで支える森林づくり上伊那地域会議（第1回）要旨

開催日時 令和3年（2021年）7月28日（水）13:30～15:40

開催場所 伊那市防災コミュニティセンター 第1・第2研修室

構成員 三木 敦朗（座長）、斎藤 真吾、高山 美鈴、田中 聡子、辻井 俊恵、唐木 信彦、赤羽 裕治

事務局 竹村地域振興局長、中島林務課長、佐口林務係長、平林林産係長、保科普及係長、百瀬主任森林経営専門技術員、戸上治山林道係長、木下鳥獣対策専門員、小沢技師、上野森林保護専門員、清水主査

会 議

- （1）令和2年度長野県森林づくり県民税活用事業の実績について
- （2）令和3年度長野県森林づくり県民税の事業内容について

<事務局説明>

会議事項（1）のうち、資料1により森林づくり県民税活用事業の検証・評価の流れについて説明及び資料2により令和2年度森林づくり推進支援金事業の実績について説明

（三木座長）

今の資料1・2に対して皆様からご意見、ご質問をいただきたいと思います。

（高山構成員）

検証及び評価のところ、例えば宮田村では「林道が整備されて、林道の保全及び、林産物の搬出・造林等林道関係作業車両並びに宮田高原キャンプ場の利用者の交通の円滑化と安全が図られた」とのことですが、「これまでは通行止めが年に何回あったが、それがなくなった」とか、「時間がこのくらいかかっていたが、何時間減らすことができた」とような定量的な評価の記載が全然ありません。他の事例も「搬出の量を増やすことができるだろう」とような記載ばかりですので、定量的な評価ができていないかどうか伺います。

（保科普及係長）

今回の評価については、事業も含めて特にこちらから定量的なものは求めておりませんでした。ただ、今のご意見をお聞きして、定量的な評価の視点も重要と思ったところです。

今年度も事業があり、それに対する評価・検証も入ってきますので、各市町村に対して定量的な評価に努めていただくよう話を進める形で、今後取り組んでいきたいと思っています。

（高山構成員）

そうでないと県民の皆さんへの説得力がないと思います。「良くなると思う」とか「良くなったと思う」と言われても、本当にどのくらい良くなったということがなければ事業として完全に終わったとは言えないのではないかと思いますので、よろしくをお願いします。

（竹村局長）

ありがとうございます。おっしゃるとおりだと思いますので、改善したいと思います。

（三木座長）

下駄箱のようなものは定量的な評価を示すのは難しいかもしれないですね。

(高山構成員)

子ども達の意見として「使ってみて気持ちいい」というようなアンケート結果があるだけでも違うと思いますし、自己評価で「なんか良くなった」というだけではちょっと説得力に欠けるかと思います。

(唐木構成員)

松くい虫対策の関係が二つ出ています。特に伊那市の特殊伐採については、建物や道路付近の特殊な部分でなかなか処理のしにくい場所というのは、地元の方も困りますし山主さんも困りますので、こういった事業で対応できると道際などが安全に活用できるので、非常に良い取組みだと思います。

(辻井構成員)

例えば南箕輪村のアカマツの松くい虫の被害に対しては直接的な対策でなく、問題提起や解決の手段として地域産材のテーブルを購入したということになっています。中川村の放置林対策も、大事な問題で深刻な話だと思いますが、放置林の解決方法が保育園の下駄箱設置というのでは、理由付けとして少し甘いのではないかと思います。

テーブルの購入や下駄箱の設置と、地域の森林・林業の課題とをどういう風に繋げたのかという部分をもう少しお伺いしたいのですが。

(保科普及係長)

この総括書は、市町村の方々が取り組む中で、ストーリーの部分の一部省略がどうしても出てきていると感じております。南箕輪村につきましては、大芝高原にも松くい虫が入ってくる中で、今後の大芝高原のマツをどういう形で考えていったらよいかを長期的な視点に立って、今全体的なビジョン（南箕輪村大芝村有林整備基本計画）が考えられています。その中で、松くい虫の被害木をただ処理するという話だけではなく、適正な更新を図っていくような考え方も検討されており、こうした一環で、ただ伐るだけではなく、それを使い新しい山をまた作っていくというストーリーがもう少し理解されるよう、総括書の中で工夫することを進めていきたいと思っております。

また、中川村についても、ただ単に森林を整備するだけではなく、それを使っていただくことで、また身近に感じていただいて次世代の子どもたちに繋げていく、そのストーリーを総括書の中で、当然スペースの問題もありますが、できるだけ書き込んでいただくように市町村の皆さんに伝えてまいりたいと思っております。

(赤羽構成員)

市町村の代表の一人として、重要な意見をいただきました。

当町の場合は、小野のしだれ栗森林公園での事業にみていただきますとおり、この公園自体が昭和50年代半ばに林業構造改善事業などで開発した森林公園であり、だいぶ老朽化が目立つ中で令和以前から間伐材を利用した維持修繕をしており、今回県民税の活用により県産間伐材を利用して必要な箇所を修繕を、県民の皆さんのために使うような形でPRしているところなんです。

令和2年度の事業については、コンクリートや鉄骨造りの階段が経年劣化で朽ちてしまい、既にそこからの上り下りができない状態であったため、施設を使用する皆さんからの意見をいただき、今までのようなコンクリートや鉄骨のものでしたら今後も永年的に使用できると考えられますが、木に親しんでいただく、木の有効利用というものをPRできるという中で、今回この事業を使い、地元産の間伐材を利用した木製階段として改修しました。

検証的な面についても、ご意見をいただいたとおり、もう少し深く入り込んだ中で今後は評価なども行っていければと考えています。

(田中構成員)

PRに関して、大芝高原にはよく行きますが、地域産材のテーブルが設置されていることは知りませんでした。周りの世代にも「森林づくり県民税を知っている？」と聞いても「何それ？」というような反応が多いです。なかなか皆さんに伝えていくのは難しいと思いますが、一緒に何かを作ったり環境面で自分たちに関係の深いことを交えながら、森林税での取組みを伝えられたら良いのではと思います。

(中島課長)

この事業でなくても、子どもと一緒に工作をする木育事業などにも森林税は使わせていただいておりますので、そういったものも併せてPRをもっとしっかりやっていきたいと思っています。

(斎藤構成員)

先ほどから話題に出ていることと重複しますが、どれも単年度事業でみており、例えば「林道を直しました」と言えば単年度の話になると思いますが、過去にどういうことをしてきたとか、先ほど話のあったストーリー的な大きい話、担い手どうこうまで踏み込んだ話もありますので、先ほど定量的な評価という話もありましたが、実際こういうことがストーリー的にどう繋がってきたということがもう少し見えると面白いのかなと思います。

例えば中川村の事業についても、どのくらい村産材を使っており認知度が上がってきているとか、もう少しストーリー的なのが見えるといいなと思います。

(竹村局長)

おっしゃるとおりだと思います。

様式が固定されていてこうなっておりますが、おそらく今の話のように、ある程度中長期のスパンでどんなことをやりたいのかを示しながら、その中で今、現時点ではここをやっている、さらには先ほどの定量的な部分を含めて、こういう成果が上がりましたという形で示していくのがおそらく県民の皆さんにもわかりやすいかと思います。

この事業の制度的なところもありますので、しっかりこういうご意見をいただいたということを県民会議に上げさせていただき、見直しを図っていききたいと思っています。

(三木座長)

間伐を進めたり、アカマツのように松枯れが入ってくる中で樹種転換し、次の森林を育てていくとなると伐採をするのですが、その森林に長く親しんできた方、あるいはその森林を植えられた方というのは、木の本数を減らすということに少し抵抗感が出る人がいます。

しかし、その材を使ってみんなの役に立つものや美しいものができるのだという形で示せると、積極的に木を使って次の森林を更新していこうという意識も醸成されると思います。やはりそういう説明があってこそ意味を持つのであって、ここに県産材を使いましたというだけではなかなか意識付けにはならないので、これから県・市町村で努力していただければと思います。

木製品を使っているもの、または林道の整備というのがありますが、いずれも今後のメンテナンスもきちんと行う必要があります。木材が野ざらしになってどんどん朽ちていくのではいけませんし、林道も作ったら維持を周到にしていけないといけないのですが、市町村側に管理とか、木製品のメンテナンスというのはこれまで業務としてやってこなかったと思われるので、こういう風にすれば長持ちするというようなことを、例えば県の林業総合センターからアドバイスをもらうとか、そういう体制を整えていただくと県民税を使ったものが有効に長持ちして、県民の皆様の前に良い状態で長く見ていただけたらと思います。

<事務局説明>

会議事項(1)のうち、資料3-1及び資料3-2によりみんなで支える森林づくりレポート(県全体の実績)、上伊那地域の実績及び上伊那地域の取組概要について説明

(三木座長)

今の実績についての説明に対して皆様からご意見、ご質問をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

(斎藤構成員)

資料3-1の37~38ページをみると、上伊那の執行額が全県に対して非常に高いのですが、これは県全体としてどういう評価なのでしょう。上伊那は全県の1/4を占めておりますが、どういうところだと評価されているのでしょうか。

(中島課長)

上伊那では税事業に対して、地域の皆さんに一生懸命取り組んでいただいております、木質バイオマスなどへの取り組みも進んでいるなど、非常に意識が高いエリアであると思っております。それが結果的にこのように25パーセントくらいのシェアになっていると考えられます。

また、里山整備利用地域の指定については、他の地域に先行して指定が進んできたことも関係していると思います。

(斎藤構成員)

林野庁が以前行った森林山村多面的機能発揮対策も上伊那はものすごい数がありました。

(保科普及係長)

従前より地域活動を団体で立ち上げて地域の森林を利活用しようとする動きは、非常に上伊那地域は多かった。そういったことも一因かなと思います。

(三木座長)

資料3-1の15ページをみると、里山整備利用地域の認定状況に係る県の資料がありますが、上伊那・下伊那地域は地図に赤い丸が多く表示されている地域ですので一目瞭然ですね。別に他の地域で認定を阻んでいるわけではないでしょうから、他の地域から上伊那が恨まれるということはないと思いますが…。

昨年の会議でも申し上げましたが、里山整備利用地域のように上伊那がかなり先行しているのがあるということは良いことで、上伊那が県の他の地域に対して、先行事例・モデルケースとして、他の地域から見に来ていただければ他の地域の新たな活動が盛り上がっていくのではないかと思います。そうすると上伊那地域の市民の方にこの地域での県民税の利用のされ方を広報されるのはもちろんのこと、地域の外に対しても、上伊那をぜひ見に来てくださいと、こういう風にやればうまくいきますという形で上伊那の事例を紹介していけば、上伊那だけではなく県全体の県民税として理解されるのではないかと思います。

(田中構成員)

森林に関わる仕事に就きたいが職場が無いという話を聞くことがありますが、例えば資料3-1の35ページ、人材の育成事業に受講された方々がその後仕事に就かれたり、どういう場で活躍されているかなど何か事例があれば教えていただけませんか。こういう事業で育成された方々がその後、就職されたりだとか継続して学ばれていたりだとか、そもそもそういう活躍の場が何かあったりするのかとか…。

(中島課長)

例えば「里山整備利用地域リーダー育成事業」ですと、どちらかという本業としてやるということまでのプログラムではなく、あくまでも地域活動の中心になるような位置づけでこのプログラムはできておりますので、直接そういうところには繋がっておりません。

(田中構成員)

森林セラピーとかで活躍されている方とかは？

(保科普及係長)

森林セラピー、エコツーリズムにつきましては、それぞれの施設などを通じて新たに指導者になろうという人たちを育てるという性質のもので、いわゆる雇用対策のための人材育成とはちょっと違います。また、課長も申しあげましたとおり里山整備利用地域リーダーにつきましてもその地域の声掛け役というような地域リーダーを育て、そこに長野県が育成している林業士などのプロの方が寄り添って活動を支えると、そのような事業のイメージになっております。

(竹村局長)

今おっしゃっていただいたことは、おそらく林業の枠だけではなく観光なども含めてトータルで考えていかないと活かしていけないのではないかという感じがします。上伊那はまだ観光面が非常に弱く、県下の観光消費額でみると全県の3パーセント程度しかありません。

これから森林資源などをセラピーも含めて活用しながら、現在はコロナの関係で動きづらい部分もありますが、観光面などともあわせて、ある程度範囲を大きくしていかないとなかなか人を活用するという形にもならないので、林務だけではなく商工観光など色々な観点を含めて連携していかねばならないと思っております。

(三木座長)

22 ページに「去年はできなかった」との記載ですが、エコツーリズムガイド人材育成事業はコロナの影響でできなかったのですね。仕方がないことですね。

上伊那地域でいうと大芝高原が森林セラピーの場所ですし、エコツーリズムで言えばジオパークとエコパーク、新たな国定公園の設定も中央アルプスで行われている。そういう点で言えばまだまだこれからのところではあるということですね。

なかなか難しいとは思いますが、確かに県民税の活用で人材育成がされたことによって、どういう風な取組みが前進したのかという、上伊那も観光の範囲が大きくなるというところが何かしら繋がればよいのかなと思います。

辻井さんは、事例集の最終ページに記事が添付してありますが、これはどういう活動だったのですか？

(辻井構成員)

これは1年半かけて、南箕輪小学校の当時3年生から4年生の1クラスで合計13回の授業をしながら、子どもたちが森林伐採から木造建築物を造り植樹まで行うという事業です。補助金は27万円程度だったと思いますが、記事に載っている小屋を造りました。この時に思ったのが、事業をしてきた中で、様々な新聞、テレビといったマスコミの方が来られて取り上げてもらえるわけです。学校のお便りにも載るわけです。私その時に「森林税を使った活動です」ということをアピールしたいと企画書に書いたら、この活動で森林税を使うこと自体がアピールだからそんなことしないでいいと林務課の方に言われました。これを受け、次からは「森林税」という言葉は省いて「建築士会です」とひたすらアピールした結果、「建築士会」という言葉がこの1年半の間に60回以上もテレビや新聞に載ったわけです。

森林税を使ってただ何かをした、何かを買っただけではやはり多くの人に伝わらないので、その度に、この事業に森林税を使っているというのをアピールしていただきたいというのを、県から逆に税を使う人へお願いすべきだと思います。

機会を逃さず冊子の配布や1枚紙でもよいので来訪者や保護者に配布する、そういう活動を続けていくことで、しっかり森林税という言葉が次世代に覚えてもらえると思います。この事業は次世代に繋げる活動ということで県建築士会の大会で発表しておりますが、今度全国大会で発表してくるのですが、「森林税」とは何かと大会側から質問されていて、県の補助金を使ってという言葉にしております。長野県以外だとわからないものでしょうか。

(中島課長)

名称は各県それぞれ違いますが、全国37府県で同様の制度があります。また、使い道もそれぞれ違っています。

(竹村局長)

簡単に一言で「森林税」とは、県民の皆様ひとりワンコインずついただき、それを森林づくりに使わせていただいている形かと思います。

(三木座長)

国の森林環境税・森林環境譲与税ができてしまい、それとごっちゃになってしまうのが悩ましいですね。

(辻井構成員)

全国大会のプレゼンの時間は短いので、森林税についての説明は一言になってしまいますが、私以外にも森林税を何かに使わせていただいた人は何かしらそれを説明する機会があるので、そういうのを県はしっかり把握して、その人に資料を渡し、「これ置いてきて」「配ってきて」「話してきて」とお願いしていけばよいかと…。例えば、森林税を活用して購入したテーブルを大芝高原に設置しました、その後大芝でイベントがある時にはそこに森林税のパンフレットを積んで「森林税を使いました」とひとこと伝えるとか、ちょっとした何かついでのPRで広告へ大金を積まなくても色々できるのではないかと思います。

今でもそこら辺で子どもたちに会うと「あ、辻井さんだ」と声を掛けてもらえます。こうして皆で繋がって記憶に残っていくものだと思いますので、こういう活動でのせっかくのPRポイントは逃さない方がいろんな場面で皆さん温かい目で見えてくれるのかなと思います。

(三木座長)

もったいないことをしましたね。

(中島課長)

貴重なPRの機会を逸してしまったこと肝に銘じておきます。私も何回か現場にはお邪魔させていただいて、子どもたちが本当に元気よくやっているのを見ております。子どもたちには「森林税」という言葉は覚えてもらえませんでしたでしょうか？

(辻井構成員)

子どもたちは覚えています。伐採体験をした時に森林税のステッカーを配っておりますが、そのような機会は大事だと思います。

(三木座長)

特にこうした事業を行えば、子どもの中に森林税のことだけではなくて木を使う、それが木で家を建てるということに印象付けられる、学習してもらおうと同時に、そういう機会を通じて子どもに資料を渡せばそれがその保護者のところにも渡り、それが森林税の普及にも繋がるということですね。確かにそれはことあるごとにやらなければと感じられますね。

(竹村局長)

森林税が3期目に入る時に、この税は継続すべきかどうかという議論もあって、たぶんその説明もさせていただいたかと思いますが、こういう身近なところも含めてしっかり使わせていただいていることをPRすることによって、税としての意味もまた分かっていた部分もあるかと思います。すみません、今後しっかりPRさせていただきます。

(斎藤構成員)

今の話ですが、ステッカーというのはどういう機会にいただけるのでしょうか。

(辻井構成員)

当時「何か配れるものはないか」と林務課の人に聞いたところ、その方が用意してくれました。

(保科普及係長)

全県の経費で作ったものが当課に配布されており、それをイベントなどで配布するためにお渡ししたかと思います。ステッカーというよりはシールですね。

(中島課長)

資料3-1表紙に掲載のキャラクターがありますが、これを使って森林税をアピールするシールがあります。もしお使いいただけるのであればご用意します。

(斎藤構成員)

自分自身が肌感としてちょっと感じているのですが、自分は事業として人材確保のため人を探したりしております。その中で、社会的トレンドだなと思うのが、僕が学生の頃はそこまで考えてこなかったのですが、特に今の中高生は環境に興味を持っていることを強く感じています。あと数年後であれば入りたいという人が結構いますので、啓蒙活動が花開く瞬間があと数年後には来るのではないかというのを、今お話を聞いていて思いました。機会があればそういう面からも自分も何か協力できればと思います。

(三木座長)

「SDGs」とか、大人は知らないけど子どもはみんな知っており、ちゃんと内容も分かっています。

(斎藤構成員)

私も中川村で何件か関わらせていただいた「ライフライン等保全対策」は、先ほどの唐木さんの発言どおり非常にいい制度だと思います。防災・減災というのは今後の基本的なトレンドというのも変ですけど、造林以外に今後焦点を当てるべきと思うのは、危険木というか放置されたライフライン脇の立木が全国的にも大きな問題になると予想される中で、達成率から見ても非常に要望が多いのではないかと思います。

今後増やしていこうという考えはあるのでしょうか？

(中島課長)

ぜひそうなるとうれしいと思いますので、要望として挙げていきたいと思います。

(斎藤構成員)

大変良い制度と感じておりますので、ぜひ今後も予算を確保していただければと思います。

(三木座長)

県民の皆さんの関心も非常に高いところですよ。

その他、こういう実績の中で、身近で見たことがあるとか、あれが実はそうだったのかということはあるですか。

(高山構成員)

松枯れの処理というので、この事業が始まった2期目あたりはすごく大きな問題でその度に松枯れという話が出ましたが、対策が行き届いたのか他の事業に移ったのか不明ですが、今松枯れの話は少なくなっており、もしこれが解決の方向に動いているのであればいいなと思います。

ただ、松本周辺に行くとひどい状態であり、もう勢いは止められないのではと感じております。大芝高原でも樹幹注入を行っておりますが、効果があって抑えられれば嬉しいですが、松本の勢いで枯れたらそれを利用して机作るぐらいじゃ間に合わないとか色々思いました。

上伊那での松枯れの状況はどうでしょうか？

(三木座長)

辰野辺りだとちょうど塩尻との境界ですから、もし中信地域から広がって来るとすれば辰野からだと思いますがいかがでしょう？

(赤羽構成員)

四面楚歌の状況ですが、おかげさまでお隣の箕輪町でも、伊那市がだいぶ松枯れが進んでいる中で当然松枯れを防ぎたいというのがあるのだと思いますが、できるだけ北に広げたくないということがあります、かなり多くの財政を投じて緩衝帯というか幅広く木を伐って、その後は天然林に更新する事業をさせていただいています。

また、岡谷市・塩尻市においてもまだまだ辰野から離れたところでの松枯れですし、被害木などの発見があったら瞬時に連絡をいただけるなど連携を取っております。

辰野町とすれば松枯れの被害を、いずれは当地に来てしまうといえども、できるだけ未来に送りたいということで事業を進めています。

(上野森林保護専門員)

今上伊那地域では辰野町以外の市町村に松くい虫被害が出ています。昨年度は今までで最も多い約 6,000 m²の被害が発生しており、その内 3,000 m²を駆除していただいています。

松くい虫対策は森林税以外に国の事業もあり、上伊那では約 2 億 5 千万円を森林組合や民間事業体によって、アカマツを皆伐し他の樹種であるヒノキとか広葉樹を植える樹種転換を実施しています。また、被害木の駆除については、特に箕輪町は北限であることから、北上しないよう被害に遭った木は全て伐って処理していただいています。

(高山構成員)

松くいも大変ですね。高速道路で松本地域を通ると、赤く枯れたアカマツを見ると悲しくなります…。

(斎藤構成員)

今の松くいの話で、僕が中川村に来た頃は被害地域に指定されていなかった状況だと思うのですが、最近は村でもまたポツポツというか結構増えているような気がします。

また、ここ数年ナラ枯れを伐るようになって、先ほどこの一部改正というところにカシノナガキクイムシの対応も対象とする記載がありますが、これはどういう形で補助金が出るのでしょうか。

(保科普及係長)

この事業は、もともと松くい虫で枯れた木を有効活用した方が良いのではないかと、その時こうした枯損木というのは逆に言えば乾燥が進んでいる木でもあるので、燃料用とするには非常に良いことから産業への活用に対して経費を支援しましょうという制度で発足しました。そして、近年のナラ枯れに対しても使えるという形に今回指針を改正・拡充して今年度から実施しようというものです。

もともとの制度は、市町村が事業主体でしたが、このコロナ禍にあって林業事業体に対してもこの事業が使えるように今年度から対象を上げたところです。

(斎藤構成員)

自分が今後行方中川村の現場においても、ほぼほぼ老齢木の全部がナラ枯れだろうという場所があります。今までは目にしなかったもので、この数年でいきなり葉の色が変わってきたかの印象があります。ですから、被害対策として何かあるのであれば松枯れ対策と同時進行にはなるが考えていただけたらと思います。

(唐木構成員)

予算の確保というところでお願いしたいのですが、事業を行う上で、高性能林業機械などを取り入れて進めてきているのですが、ウッドショックと言われてはいるものの、出荷者の方からすると丸太の値段が2倍・3倍になったのかということではなくて、一部に若干の値上がりはありますが、実際にトータルでみると全部が底上げになっている状況ではなく、やはり森林税のような制度の活用がどうしても必要になってくると思います。

先ほど斎藤さんから上伊那地域では多く予算を活用しているという話がありましたが、なくてはならない制度になってきておりますので今後とも活用できるように、また2022年で一区切りではあるのですが、その後も続けてぜひ進めていただきたいと思います。

(辻井構成員)

今の意見に関連して、利活用の話ですが、建築現場はそれこそウッドショックで木材が手に入らないことがあります。外材の値段が上昇したり納期が分からないということで、ならば地域産材の方へ声を掛けないのかという話をしますが、至急対応したい時に、今までの相場の2倍以上の値段を言われてしまったり、2か月以上待ちというのがあり、とても困っています。

実際、地域産材を利用したくても、ここ数年で地域の製材所が減り、そもそもの生産量が限られている中、お付き合いのあるところ、お金を積んでくださるところが優先というのが実情です。

以前も少しお話させていただきましたが、地域産材というと、外材に比べれば値段が高いというのが現状であり、そういう地域産材、県産材みたいなものを使う時に価格差を埋める補助金、一定数使ったことで出る建築側の補助金はありますが、それとは別に購入する値段に対して割引かれる制度というのはないのでしょうか？

(中島課長)

森林税の中にはありません。

(竹村局長)

施主さん側へ行く補助金は、別の予算で実施しています。

(辻井構成員)

今、外材の値段が上がっているのも逆にチャンスとして、地域産材を外材の代わりに提案できるような補助があればいいなと思います。地域産材は使いたいけど値段が上がるというのが切なくて…。

(竹村局長)

大変良いお話をいただいたと思っております。今は制度がないのですが、これから県のゼロカーボン戦略の中で2030年までに二酸化炭素6割削減という大胆な目標を立てているのですが、そういう部分で本当に取組みを進めていくのであれば森林を循環させていく仕組みというのはどうしても作らざるを得ないと思います。

どういう方法でやるのかといった場合に、地域材を地産地消なのか地消地産なのかかわからないですが、使えるような仕組みの中で、今おっしゃっていただいたような製材の部分にも補助金を出して、材を低い額で流通できるような仕組みづくりも検討していかなければと思います。ご意見を参考にさせていただき、県としてどんな形で地域材を普及するような仕組みができるのか考えさせていただきたいと思います。

(辻井構成員)

丸太材でいくと数が少ないことがありますので、できるかわかりませんが集成材の工場を作って集成材を作って出していただけるとか、そういう使い方もあると思います。県産材の集成材だってあればいいなと思いつつ、現状材木が入らないと悩んでいます。

(中島課長)

大変貴重な情報をいただきました。

(三木座長)

長野県もカラマツの合わせ梁（信州接着重ね梁）を推しているところです。また、国の新たな森林・林業基本計画の中でも、製材工場をどんどん大きくしていこうということだけでなく、小さい製材工場もしっかり地域のプレイヤーとして大切なのだと書くようになりました。そういう点で、これまで外材を利用してきた方々が県産材にシフトする、そのシフトを後押しするような仕組みができると県産材の利用が進み、ひいてはゼロカーボンに近づくといいことがあるのかなと思います。

<事務局説明>

会議事項（２）のうち、資料４－１及び４－２により令和３年度森林づくり県民税の事業内容について説明

(三木座長)

ただ今の説明についてわからないところ、あるいはここはこうした方がいいのではないかというご意見があれば伺いたいと思います。

私の方から１点よろしいでしょうか。資料４－１の１７ページ、チップ化の事業ですが、発電用チップのチップ化は上伊那管内ではできない気がするのですが、被害木をどうチップ化するのでしょうか。

(保科普及係長)

チップは上伊那管内でも移動式チップパーなどを用いて現場で破砕あるいは中間土場で破砕という取組みがされております。発電用のチップは少し前までは切削チップでしたが、今新しくできる施設は、例えば塩尻のＦパワーも含めてほぼピンチップでの燃焼が可能な施設になっております。従いまして、どこの地域でも基本的には移動式のチップパーで対応が可能と考えております。

(三木座長)

切削チップしか使えないものと思っておりましたが、ピンチップ対応ということであれば割とどこでもできるかと思えます。

(三木座長)

全体を通して、これだけは言っておきたい、言い忘れたことがあれば伺いたいと思います。

特に、納税者からみれば多めに税負担をしているということですので、使い道もそうですが普及啓発により県民の理解を深めるのは必要なことと思えます。こういう風にしたらどうかというアイデアがあれば伺いたいのですが、何かございますか。

(唐木構成員)

以前、間伐などの作業をする時に道際で普及啓発用の旗を掲示したことがありました。山奥で旗を立てても誰も見てくれないということはあると思いますが、里山では大きい旗でなくても何か掲示するのも一つの手かなと思います。

(三木座長)

特に、県民の皆さんからのニーズが非常に多いライフラインの保護は、本当に道際をやるのですから、そういうところで「この事業は県民税を使っている」という風にやればかなり人の目にもつきますね。

(高山構成員)

以前、木曾の天文台を舞台にした地域発ドラマが放映されました。また、今連続ドラマでは森林組合が舞台になっております。山や森林組合の宣伝になっておりますので、森林税をテーマに全国向けの地域発ドラマができたらと思います。夢物語ですけど…。

(三木座長)

確かに、どの機会でも知名度が上がるかわからないので、色々なところで知名度を上げていきたいですね。

(高山構成員)

森林組合はとってもカッコいい職場ですので、就職したい人がうんと増えるのではないのでしょうか。

それと、目の前にあるこの名札（木製三角ネームプレート）ですが、芯材は国産のナラですか？目を惹きました。ただ枠はウォルナットでアメリカ製ですね。全て国産材でこのような色の製品ができれば嬉しいですね。今ウォルナットは人気で売れてますよね。

(三木座長)

それでは、また何かこういうことを思いついた、こういうことをちょっと質問したいということがあれば事務局にお問い合わせいただければと思います。令和3年度の事業もこれまで構成員の皆さんにいただいた意見を反映しながら着実に進めていただければと思います。

昨年の現地検討会はコロナウイルスの関係で中止になってしまったということですが、ぜひ今年は皆さんと一緒にできるといいなと思います。今また新型コロナウイルスの感染警戒レベルが上がってしまいましたが、次回会議においても皆さんご健康でおられるように各々注意していただければと思います。

以上で本日予定されていた議事は終了になります。皆さんにご協力いただき、ほぼ予定の時間に終わることができました、ありがとうございました。

以上